

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460

2025(令和7)年

仏暦2568年

8月号

(第167号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



法住 話職

お経は変わることはない真理



正信念仏偈に学ぶ
依修多羅顕真実
光闡横超大誓願
修多羅によりて真実を顕
して、横超の大誓願を光闡
す。

「現代語訳」
浄土の經典にもとづいて
阿弥陀仏のまことをあらわ
され、横超のすぐれた誓願
を広くお示しになり

天親菩薩の『浄土論』に
は続けて、
我依修多羅 真実功德相
（我、修多羅の真実功德相に
依りて）

とあり、一句目の「依修多羅
顕真実」はこれに依りました。
また、親鸞さまは『尊号真
像銘文』に詳しく示されます。
「我依修多羅真実功德相」
というのとは、「我」は天親
菩薩が「わたしは」と名乗
っておられるお言葉であ
る。「依」は「よる」とい
うことであり、「修多羅」

によるというのである。
「修多羅」はインドの言葉
であり、仏の説かれた經典
をいうのである。仏教には
大乘があり、また小乗
があつて、これらの經典
をみな「修多羅」という。
ここで「修多羅」というの
は大乘のことであり、小
乗のことではない。浄土
の三部經は大乘の經典
であり、この三部の大乘
經典によるというのであ
る。「真実功德相」という
のは、「真実功德」とは本
願に誓われた名号のこと
で、「相」とは「かたち」
ということばである。

「修多羅」＝スートラ＝經と
訳され、不変の真理を意味し
て、仏教ではお経を指します。
お釈迦さまの説かれた修多羅
（浄土の三部經）によつて
阿弥陀仏の真実なるかたちと
して顕されたということば
です。天親菩薩は、生きとし生
けるもの全てが救われる大
乗の思想を広められました。
二句目は「光闡横超大誓
願」です。「光闡」とは、光

輝かせて明らかにして世に広
めることです。そして、「横
超」について、同じく『尊
号真像銘文』に、

「横」は「よこさま」とい
うことである。「よこさま」
というのとは、阿弥陀仏の本
願のはたらきを信じること
によつて、行者のはから
いによらずに、迷いの世界
を自然に断ち切つて、その
世界に生を受けることを離
れるのであり、このことを
「横」といい、また他力と
いうのである。これを「横
超」というのである。

と示されます。「大誓願」は、
すべてのものを救うと誓われ
た本願のことで、他力本願を
示されたと言われます。

この寺報の二〇一五年一月
号の法話にも、歌手の中島み
ゆきさん「糸」の歌詞「縦の
糸はあなた横の糸はわたし」
を取り上げ依りどころの大切
さをお伝えしました。あなた
（縦糸＝お経）がいたからわ
たし（横糸＝他力）がいると
いう、自己中心的な見方を変
えることばでもあります。

浄土真宗 新 仏事のイロハ

五、礼儀と作法

― お寺に親しむために ―

「お寺と門徒」

引つ越しの時はお寺へも連絡を！

私のお寺では毎月「寺報」を作り、門徒宅などへ郵送しているのですが、時たま「転居先不明」で返ってくるものがあります。「引つ越しされたのか？」「それとも何かあったのか」とあれこれ考えた上、「どうして連絡してくれなかったのかなあ」と寂しくなります。

近ごろは、一生同じ土地で過ごす人はまれになり、特に都市部では引つ越しがさかんに行われます。そんな時、ガスや電気、水道、電話などは転居届けを出されるのですが、お寺への連絡を忘れる（？）人がおられます。お寺としては、それは教えを伝える上からも、お寺の案内や諸連絡を行う上からも困るので、必ずお寺に来て、転居後のお寺との関係をはっきりしておいていただきたいのです。

もし、お寺にお墓があったり、お寺名義の納骨所に先祖の遺骨を納めていたりすると、その管理についても話しておかねばなりませんし、転居先の住所もきちんと知らせておく必要があるのです。

そうした管理上の問題がなく、お寺から離れるというのであれば、その旨を告げ、住職の了解を得て、転居先に近いお寺を紹介してもらってください。

引つ越して来た方で、しばしば、「お西さん（浄土真宗本願寺派）のお寺をあちこち探しましたが、なかなか見つからなくて…」とおっしゃる方がいます。そういうことにならないためにも、引つ越し前に紹介してもらいましょう。

また、中には「お寺はいないから、別に今住んで

いる所でお寺を探さなくてもよい」と思っている方があるかもしれません。お寺を「先祖やお墓を守る所」と考えておられるのでしょうか。しかし、お寺というのは、本来「今生きている人が教えを聞く所」であり、今の生活を離れてあるのではないのです。その点から、教えを聞こうとする人には、全国どこのお寺でも門戸は開放されています。「いなかにお寺がある」人も、今住んでいる近くのお寺とご縁を結んでください。

「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より

今回をもちまして、「仏事のイロハ」からの連載を全て終えました。

次回より、「くらしの仏教語豆事典」辻本敬順著（本願寺出版社刊）から、身近にある仏教語をお伝えしていきます。仏教が由来の言葉は意外と多いものです。楽しみにしてください。

年忌法要表

1 周忌	2024(令和 6) 年	23 回忌	2003(平成15) 年
3 回忌	2023(令和 5) 年	25 回忌	2001(平成13) 年
7 回忌	2019(令和 1) 年	27 回忌	1999(平成11) 年
13 回忌	2013(平成25) 年	33 回忌	1993(平成 5) 年
17 回忌	2009(平成21) 年	50 回忌	1976(昭和51) 年

編集後記

しょうしんねんぶつ 正信念仏偈の法話は、内容が複雑になってきています。文字も限られわかりやすくお伝えするために要点のみになっています。中島みゆきさんの「糸」の歌詞を取り上げましたが、お題には相応しくないとこの見方もあります。少しでもわかりやすくお伝えするためご了承ください。

